

世継の歌



65

60

55









國  
地  
圖  
卷  
三  
三  
三









# 世繼の歌

## 例言

この歌は、天孫降臨よりこなた、  
明治維新よゝるまでの事ど  
もを詠せし歌よて、日本歴史を  
よみならせん兒童の爲よ、歴代  
の大勢をそらんせしめんとて  
のすさびなり。



この歌の、余、十餘年前、世繼千辭  
文といふを作らんとせしほど、  
まづ、試みよ、辭數をもかぎらず、  
同辭をもさけぬ、この歌を作り  
しを、その後、幾度ともなくそへ  
もしけづりもして、終よ、かうぞ  
まよひ志なし、なり。

この歌も用ひよる、五七一連の  
句數の、七百二十二句よして、辭  
數の、大約、二千二百辭なり。辭句  
の、文字鎖をもてつなぎ、或の、故  
事をもてつなぎよる、などもあ  
れば、みんな、そのこゝろせらる  
べし。

明治廿七年十二月

物集高見



世繼の歌

目次

(一) 段 國がと  
國ぶり

(二) 段 御代のおじめ

神武帝、鳥見の山、

崇神帝、弓薙のみつぎ、手末のみつぎ、

垂仁帝、埴輪、

景行帝、熊襲梟帥、

日本武尊、草薙の劔、



成務帝、國郡のさうひ

(三) 段) 朝まつりごと

仲哀帝、

神功后宮、三韓征伐、

應神帝、文學、

仁徳帝、民のけぶり、

履仲帝、四方の筆、

允恭帝、衣通姫、甘檮のうけひ、

安康帝、山の宮、

雄略帝、葛城山の獵、蠶養、

飯豊帝

顯宗帝、仁賢帝、室ほぎ、

武烈帝、歌垣、

繼體帝、磐井の亂、

欽明帝、佛をがみ、

崇峻帝、麻戸の皇子、

皇極帝、斑鳩宮のなげき、法興寺の蹴鞠、

(四) 段) 難波朝のあさまつりごと

孝徳帝、大化の政、

天智帝、朝倉の宮、

弘文帝

天武帝

(五) 段) 奈良朝のあさまつりごと



元明帝、奈良の朝、  
聖武帝、玄昉と廣嗣と、  
孝謙帝、道鏡と押勝と、  
稱徳帝、宇佐宮、

(六) 段) 平安朝のあさまつりごと

桓武帝、遷都、將軍塚、延暦寺、  
嵯峨帝、樂々の亂、橘皇后、うれへ  
文、

(七) 段) 藤氏の世のさま

仁明帝、恒貞親王、  
文徳帝、藤原良房、

陽成帝、藤原基經、

光孝帝、井川の行幸、

宇多帝、遣唐使、賢聖の障子、

醍醐帝、管家、寒夜の御衣、

朱雀帝、將則と純友と、經基と貞盛と、

村上帝、梨壺、鶯宿梅、内侍所、

冷泉帝、御璽の箱、

圓融帝、三船の風流、二人の關白争、

花山帝、弘徽殿の女御、

一條帝、紫式部、清少納言、藤原道長、

平忠常、



後冷泉帝、前八年の軍、  
後三條帝、華侈の禁、藤氏のささぎ、

(八) 院のまつりごと

白河帝、僧徒の横行、北面の武士、  
堀河帝、後三年の軍、五節の舞、  
鳥羽帝  
崇徳帝  
近衛帝  
後白河帝、保元の亂、  
二條帝、平治の亂、

(九) 平氏の世のささ

六條帝、平清盛、三百人の童部、  
高倉帝、小督局、鹿が谷、

(十) 源氏の世のささ

安徳帝  
頼朝、義仲、  
平家の都落、一の谷の軍、  
八島の軍、壇浦の軍、  
鎌倉の幕府  
静の舞  
曾我兄弟  
實朝

(十一) 鎌倉執権の世のささ



順徳帝、西面の武士、  
承久の軍、北條義時、北條泰時、  
最明寺時頼、青砥藤綱、  
後宇多帝、蒙古の襲來、  
北條高時、田樂、犬鬪、

(十二段) 吉野行宮の世のさま

後醍醐帝、笠置山、  
楠正成、藁人形、雲のかけをし、  
大塔宮、般若寺の経箱、  
兒島高德、十字の詩、  
名和長年、船上山の軍、  
新田義貞、北條氏の亡、

足利尊氏の叛

正成の子の戦死、長年の戦死、吉野の行宮、  
金崎の軍、杣山の軍、義貞の戦死、  
後村上帝、楠正行、  
如意輪堂、四條繩子、

(十三段) 足利氏の世のさま

北朝、室町、  
武家のさうえ、  
公家のおとろへ、  
天下一統  
京都のさま、徳政、民のなげき、  
應仁の亂



鎌倉の將軍

北條氏、上杉氏、

河中島の軍

毛利元就、陶晴賢、

(十四段) 織田氏、豊臣氏の世のさま、

天台宗、日蓮宗、真宗のさま、

織田信長、桶狭間の軍、

明智光秀、本能寺の軍、

豊臣秀吉、備中高松の軍、

山崎の軍、賤ヶ嶽の軍、

聚樂第のちうひ

征韓

(十五段) 徳川氏の世のさま

徳川家康、關ヶ原、方廣寺の鐘、

淀君、大坂城、

江戸の政略

朝廷と諸侯と

天草のさま、天主教、種子島、

東叡山の座主

後光明帝、由井正雪、

徳川家綱の薨、酒井忠清、

赤穂の義士

文學

大鹽平八郎



(十六段) 今の御代のとじめ

米國の軍艦、櫻田の變、  
七卿の都落、薩摩と長門と、  
鳥羽、伏見の軍、  
上野、箱館の軍、

(十七段) 今の御代

王政復古  
國のてぶり

世繼の歌

豊後

(二段)

大和島根の  
朝日夕日を  
亞細亞の海よ  
龍も似るる  
頭をあげて  
太平洋も

物集南見著  
國形ハ  
さげつ  
達蛇へる  
くらおろみ  
あぎとまが  
のみつべし





尾ヲをうむりして  
高麗唐土モロコシも  
龍タツの背セにのる  
限カギりなき世ヨを  
天皇命スメラミコトを  
四千餘萬センマンを  
四千餘萬センマンの  
代々ヨを重カサねて

とららうバ  
うちつべし  
民タミ艸クサの  
志ろしめす  
いさゝきて  
かぞへさりし  
たみくさの  
こしうさを

今イマのうつゝ  
かさるも遠トホき  
あなさよ仰アウぐ  
高タカきひりり  
世ヨを浦安ウラヤスよ  
首陀スダも刹利セツリも  
ひとつのもてる  
君キミよさゝげて

語部カダリベの  
三千年ミチトセを  
高千穂タカチホの  
てらされて  
すむ民タミの  
匹スル如ス身ミも  
真マところを  
くれえとり』



(二段)

御ミ筑ツク波ハの山ヤマも  
御ミ蔭カゲかしてき

御ミくらゐるよ  
蔭カゲのあれど  
檀カシ原ハラの

このもかのもよ  
常トキハ磐カキ堅ハ磐ハよ  
大オホ御ミ基モトを  
富トシのチガハ小河ハの  
宮ミヤのミヤさうえを

まげりあひて  
うぶさなき  
鳥トリ見ミの山ヤマ  
瑞ミツ籬ガキの  
蟀コメ谷カミの

耳ミミよのきさりで  
居イも定サダまらず  
四ヨ方モのみつぎを  
埴ハニ輪ワのヒト人ヒト  
御ミ代ヨのメグ恵メグみも  
海ウミ見ミふりくる  
熊クマ襲ソ梟タケ帥ルが  
餘ナゴ波リのナゴさうぎ

眼マナコ皮ヒの  
とこびくる  
みさゝぎの  
聲コエたてぬ  
不シ知ラヌ火ヒの  
くまつら  
とく太タ刀チの  
さうぎ



閑野シヅヤの小管コスゲ  
劍ツルギをとるる  
駿河スルガの野火ノヒ  
御稜威ミイッいたゝふ  
吾妻アツマのなげき  
煙ケブリさびしき  
きえぬ功績イサナ  
楯タテと矛ホコとよ

鎌カマをなみ  
草クサ薙ナギの  
あめれども  
海ウミ中ナカの  
たちのぼる  
能ノ衰野ボノよも  
つきよつる  
道ミチの志シり

(三段)

奥オクのこほりの  
境サカイ界ヘの志シるく  
志シづむ夕日ユフヒを  
うりぶる船フネの  
八十ヤソ艘カネほさぬ  
千々チチの寶タカラも  
世々ヨヨよつとへて  
文フミの志シやしよ

山ヤマ河カハも  
筑ツク紫シ濁ガタ  
まもりつゝ  
うぎぶら  
みぎとよの  
ながれての  
鳥トリの跡アト  
さく花ハナの



にはひえならぬ  
おのがこゝろと  
今を春方の  
かをりみちての  
氏のかまどの  
にぎとふ凝煙も  
空よつもれる  
四方の筆よも

木の花  
ほころぶる  
高殿よ  
けぶりいづる  
阿麻づよひ  
かつちれば  
こととざの  
かゝりけん

搔上の箱の  
おつるう蜘蛛の  
志るしゆしき  
宮よたゝずむ  
もふべをぐらき  
誓約かくさぬ  
今にかへりて  
眺望さびさる

くしうらよ  
ふるまひも  
藤原の  
人・やたれ  
甘檮の  
氏人  
欄干の  
やまのみや



むろしぐさりの  
むすべる夢ユメの  
ひきりへしるる  
たむればくるふ  
いうりなごめし  
今日の獲物エモノと  
山ヤマの列卒セッコの  
ひいくの機ハタの

うさねよ  
さめぬ世ヨを  
あづさ弓ユミ  
いうりるの  
言コトの葉ハを  
かづらぎの  
聲コエたえて  
あやにしき

蠶コガヒ養ヒいとなき  
火ヒ焼タキ童ワラハの  
振フル之ノ神カミ楯スギ  
おくれさきごつ  
志シをしさふる  
宮ミヤみがほしき  
鱈ヒレふる鮪シビを  
かるもの床トコの

むろほぎよ  
うさひなす  
もとすゑの  
大オホ殿トを  
角ツノ刺サシの  
歌ウタ垣ガキよ  
あさる猪イノの  
おきふしよ



志<sup>シ</sup>と<sup>ト</sup>ぞ<sup>ゾ</sup>み<sup>ミ</sup>づ<sup>ヅ</sup>れて  
あ<sup>ア</sup>ぢ<sup>チ</sup>さ<sup>サ</sup>な<sup>ナ</sup>き<sup>キ</sup>世<sup>セ</sup>を  
ふ<sup>フ</sup>ふ<sup>フ</sup>び<sup>ビ</sup>て<sup>テ</sup>ら<sup>ラ</sup>す  
磐<sup>イハ</sup>井<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>清<sup>シ</sup>水<sup>ミヅ</sup>  
新<sup>シ</sup>羅<sup>ラ</sup>の<sup>ノ</sup>影<sup>カゲ</sup>も  
善<sup>ヨ</sup>事<sup>ト</sup> 惡<sup>マ</sup>事<sup>ト</sup>  
な<sup>ナ</sup>ら<sup>ラ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>い<sup>イ</sup>ぶ<sup>ブ</sup>せ<sup>セ</sup>き  
神<sup>カミ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>う<sup>ウ</sup>で<sup>デ</sup>い

常<sup>ト</sup>夜<sup>ヨ</sup>も<sup>モ</sup>く  
三<sup>ミ</sup>國<sup>クニ</sup>山<sup>ヤマ</sup>  
天<sup>ア</sup>津<sup>ツ</sup>日<sup>ヒ</sup>よ  
か<sup>カ</sup>れ<sup>レ</sup>て<sup>テ</sup>て  
う<sup>ウ</sup>つ<sup>ツ</sup>ら<sup>ラ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>を  
也<sup>ヤ</sup>き<sup>キ</sup>う<sup>ウ</sup>え<sup>エ</sup>る  
ま<sup>マ</sup>ら<sup>ラ</sup>う<sup>ウ</sup>ど<sup>ド</sup>の  
い<sup>イ</sup>な<sup>ナ</sup>む<sup>ム</sup>し<sup>シ</sup>ろ

〇〇〇

一一一

志<sup>シ</sup>き<sup>キ</sup>て<sup>テ</sup>守<sup>モ</sup>屋<sup>ヤ</sup>も  
宮<sup>ミヤ</sup>の<sup>ノ</sup>殿<sup>ド</sup>戸<sup>ド</sup>を  
た<sup>タ</sup>て<sup>テ</sup>び<sup>ビ</sup>ろ<sup>ロ</sup>ゝ<sup>ゝ</sup>ぐ  
さ<sup>サ</sup>ゝ<sup>ゝ</sup>ぐ<sup>グ</sup>る<sup>ル</sup>幡<sup>ハタ</sup>も  
か<sup>カ</sup>さ<sup>サ</sup>み<sup>ミ</sup>て<sup>テ</sup>ほ<sup>ホ</sup>も<sup>モ</sup>る  
藥<sup>ク</sup>な<sup>ナ</sup>め<sup>メ</sup>さ<sup>サ</sup>る  
空<sup>ソ</sup>よ<sup>ヨ</sup>く<sup>ク</sup>る<sup>ル</sup>ひ<sup>ヒ</sup>て  
雲<sup>クモ</sup>の<sup>ノ</sup>お<sup>オ</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>い

金<sup>カネ</sup>刺<sup>サシ</sup>の<sup>ノ</sup>  
さ<sup>サ</sup>し<sup>シ</sup>う<sup>ウ</sup>ね<sup>ネ</sup>て  
ひ<sup>ヒ</sup>ろ<sup>ロ</sup>む<sup>ム</sup>り<sup>リ</sup>  
き<sup>キ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>が<sup>ガ</sup>さ<sup>サ</sup>よ  
蘇<sup>ソ</sup>我<sup>ガ</sup>の<sup>ノ</sup>子<sup>コ</sup>い  
馬<sup>ウマ</sup>な<sup>ナ</sup>れ<sup>レ</sup>や  
み<sup>ミ</sup>づ<sup>ヅ</sup>ら<sup>ラ</sup>を<sup>ヲ</sup>の  
す<sup>ス</sup>さ<sup>サ</sup>む<sup>ム</sup>れ<sup>レ</sup>ど

〇

一一一



繋ぎもどめで  
のりかゝげさる  
もろき契りチギを  
むすぶ宿世スクセの  
なく音ネかなしき  
寺テラのまゝぼこ  
人もなき世ヨを  
阿利アリとよびさる

麁戸ウマヤドの  
ひさご花ハナ  
總角アデマキよ  
さどれども  
斑鳩イカルガの  
とりしむる  
蹴鞠ケマリの  
かゝりよの

(四段)

かゝれる履クツも  
煮魚フカのあさびて  
ふめバかげろふ  
入鹿イルカおぼるゝ  
底ソコさへみえて  
世ヨのあらまの  
子代御名代コシロミナシロ  
とりぐきそふ

南淵ミナブチの  
うらぶ瀬セを  
日の殿ヒノよ  
にむさづみ』  
ながれゆく  
年トシたちて  
垣カキの民タミ  
からころも



なれぬ御憲を  
 なのるの誰が子  
 木の丸殿よ  
 爪手えしなく  
 風のやどりを  
 春よもづれる  
 まがらむ瀬なく  
 たゞ雪とのみ

つぎくよ  
 朝倉や  
 たつ杉の  
 ふきすさぶ  
 三吉野の  
 志賀櫻  
 ちる花の  
 ふる事

(五段)

そよ、鳩鳥の  
 奈良の都を  
 咲顔ときめく  
 佛法僧と  
 迦陵頻迦の  
 いける浄土を  
 木綿付鳥も  
 憂きを松浦よ

青丹よし  
 毘盧遮那の  
 大寺よ  
 なく鳥の  
 こゑ妙よ  
 呼子鳥  
 刃がごとく  
 となされて



うらみを三尾ミヲよ  
高御座山タカミミクラヤマ  
弓削の河霧ユゲカハギリ  
まばゆくてらす  
宮居ミヤノかしこき  
世々ヨななぐれて  
御裳濯川ミモスツガハよ  
影すカゲししろの

近江アノミなる  
かきくらし  
こむる世ヨを  
天津日アマツヒの  
宇佐川ウサガハの  
御手洗ミテラシの  
すゝぎふる  
童部ワラハベも

(六段)

うらふ平安ウラフヘイアンの  
うつる人ヒトの  
春ハルをまちえて  
三葉四葉ミツクヨツクの  
つくりかさねし  
宮ミヤを守護マモリの  
かたくよろひて  
動きウギなき世ヨを

みやうつし  
えなごゝる』  
さきくさの  
どのづくり  
丸コノ重ヘの  
形カタ代シロの  
ひがし山ヤマ  
大比オホヒ敷エや



小比叡チヒエよいのる  
四蛇シツヤのかくれて  
毒木ドクキをさまる  
平城ナハラのむうしよ  
戸樞トボソの細乳ホソダ  
老オイもむうえて  
ときめく春ハルの  
秋アキの嵯峨野サガノの

三昧サンマイよ  
陸奥ミチノクも  
君キミが代ヨを  
拍殿カヘドンの  
ほそりゝる  
薬クスリ子コの  
とくすぎし  
和草ニコグサの

もとのねざしを  
末野スエノよむすぶ  
ぬきつらねゝる  
もりべの庭ニハよ  
おほしゝてゝる  
青人草アチヒトグサの  
御門ミカドよたつの  
うるうあもの子コ

たづね来て  
露ツユ玉タマの  
たちをなを  
枝シ折チリして  
をしへぐさ  
あさごとよ  
市イチなれや  
あきなぐさ』



(七段)

うれをのきをむ

承和菊の

下葉よかるゝ

ひうげぐさ

かゝる志いしも

とらなくよ

爪よ藍志む

染殿の

ひうりをあふぐゝ

かねごとひ

こゝよむすびて

水の尾の

末の藐姑射よ

とふれつゝ

なげ木伐りつむ

芥川の

水ミツのあせよる

岸キシづよひ

たゝ藤波フヂナミの

さむぐ世ヨよ

みどり争アラソふ

小松マツ原ハラ

千代チヨの古道フルミチ

とめて来て

いつう昔ムカシよ

をちりへる

行幸ミユキの跡アトの

小鷹タカ狩ガリ

尾ヲぶさの鈴スズの

すゝるなる

道ミチよのいでぬ

菅原スガハラや



やまと心も  
かねてめでたき  
たつる障子の  
よきをへぐてぬ  
聖の御代の  
まづりよつもる  
さむきこの夜を  
まづしき氏の

漢亭子院  
賢子院  
いにしへの  
かげみえて  
雪もよの  
いうにして  
ありすうと

冬の夜床よ  
御衣のこゝよ  
たれ濡衣を  
きくのいなく  
きうねをかをる  
去年の今夜を  
夢さむがしき  
篠島よさけぶ

ぬぎすべし  
あるものを  
きせむの  
耳無草  
あきしくよ  
おもひねの  
をりしもあれ  
ふくろふの



枯<sup>カラ</sup>聲<sup>ゴエ</sup>すぞく  
 夜<sup>ヨ</sup>鷹<sup>タカ</sup>友<sup>トモ</sup>よぶ  
 ふりき水<sup>ミ</sup>量<sup>カサ</sup>の  
 よすがとなるう  
 やとよびうけし  
 弓<sup>ユツル</sup>弦<sup>ル</sup>のひいき  
 敵<sup>アタ</sup>をたひらの  
 かねてきこえし  
 つよへきて  
 伊<sup>イ</sup>豫<sup>ヨ</sup>の海<sup>ウミ</sup>  
 みなもとの  
 なりうぶら  
 益<sup>マ</sup>荒<sup>ス</sup>雄<sup>ラ</sup>の  
 たうけれバ  
 あらましも  
 天<sup>テン</sup>慶<sup>ケイ</sup>の

みづれも今<sup>イマ</sup>の  
 詞<sup>コトバ</sup>の花<sup>ハナ</sup>の  
 春<sup>ハル</sup>をたづねて  
 宿<sup>ヤド</sup>のととひし  
 櫻<sup>サクラ</sup>よかゝる  
 影<sup>カゲ</sup>もまほしく  
 主<sup>ト</sup>殿<sup>ノ</sup>寮<sup>カサ</sup>よ  
 率<sup>ソツ</sup>分<sup>ブン</sup>堂<sup>ダウ</sup>の  
 梨<sup>ナシ</sup>壺<sup>ツボ</sup>よ  
 にほへばう  
 うぐひすの  
 梅<sup>ウメ</sup>ならぬ  
 御<sup>ミ</sup>かゝみの  
 たいまつい  
 てるものを  
 草<sup>クサ</sup>がくれ





くらしとかこつ

御稜威ミイツの志シるく

箱ハコの雲クモ霧キリ

ひうりのなごて

詩歌管シイカクワゲン絃ゲンの

三ミツの御船ミフネよ

二人フタリあらしそふ

星ホシの位タラの

人ヒトのあれど

御ミ璽シルシを

きえん世ヨの

たてむびし

風流ミヤビ士シの

むつべるを

三サン台ダイの

くらき夜ヨよ

あくがれいでし

むすびもあへで

花ハナのちりふる

ひとりかゝやく

色イロよちなめる

もうり深野フケヌの

雪ユキよかゝげし

おろしの風カゼよ

たまむすび

花ハナ山ヤマの

一イチ條ヂョウよ

藤フヂ壺ツボの

むらさきの

ひめういみ

御ミ簾ス山ヤマの

雲クモをれて





あふげわたうき  
 みちさる影カゲの  
 榮花エイクワもこゝよ  
 たちまちるまち  
 弓ユミ張ハリ月ツキの  
 かさよりかくる  
 みるめあれさる  
 駒コマの淺瀬アサセよ  
 もちづきの  
 まとらなる  
 いさよひて  
 ふしまちの  
 ひんがしの  
 總フサの海ウミ  
 落ホシ星ツキの  
 いむえつゝ

かへさいとほき  
 外ソトの濱ハマ萩チギ  
 吹雪フツキよむせぶ  
 みづれ年トシへて  
 ころものたての  
 車クルマの色イロの  
 御代ミヨの光ヒカリの  
 まじろきあふぐ  
 陸チ奥ウラの  
 をれうへり  
 鳥トリの海ウミ  
 ほごろびし  
 絲毛イトゲよも  
 みえぬまで  
 かいやけバ  
 まむゆさよ





春日カスガの神カミを  
 おらべども  
 大織冠ダイシヨククワンの  
 たましるの  
 おのれくぶけて  
 ふぢむらの  
 末葉ウラバなもる  
 多武タムの峰ミネ』  
 峠タツゲまたちて  
 おとなふや  
 優婆夷ウバイウバソク優婆塞  
 うむぐちの  
 法師ホウシがすげむ  
 くちさきも  
 峰ミネもとがれる  
 山ヤマ寺テラの

(八段)

業ゴロ火クワの炎ホノホ  
 もえよてバ  
 こぶままたぐふ  
 ひとぶまの  
 真青サキナなる君キミも  
 きえがてよ  
 雨アメの獄舎ヒトヤよ  
 つながれて  
 名ナのみながるゝ  
 堀ホリ河カハの  
 世ヨを白河シラカハよ  
 まうせつゝ  
 よどめバにこる  
 金カナ澤ザハの  
 田タノム面カの雁カリの  
 みぶるれど



十<sup>ト</sup>布<sup>フ</sup>の管<sup>スガ</sup>薦<sup>ゴモ</sup>  
きそふ<sup>ムシロ</sup>席<sup>シロ</sup>の  
志<sup>シラ</sup>が弄<sup>タマ</sup>丸<sup>トリ</sup>の  
白<sup>シラ</sup>珠<sup>タマ</sup> 璫<sup>ヒタマ</sup>  
これやいふこと  
背<sup>ソカヒ</sup>よみよる  
武<sup>ブ</sup>士<sup>シ</sup>のすがめり  
五<sup>ゴ</sup>節<sup>セチ</sup>よりうよふ

三<sup>ミ</sup>布<sup>フ</sup>七<sup>ナ</sup>布<sup>フ</sup>  
甲<sup>カフ</sup>乙<sup>オツ</sup>の  
志<sup>シラ</sup>なよぶめ  
日<sup>ヒ</sup>給<sup>タマヒ</sup>の  
睨<sup>ネメ</sup>か<sup>カ</sup>けて  
北<sup>ホク</sup>面<sup>メン</sup>の  
伊<sup>イ</sup>勢<sup>セ</sup>平<sup>ヘイ</sup>氏<sup>ジ</sup>  
公<sup>キン</sup>達<sup>ダチ</sup>の

思<sup>オモ</sup>ひあがりし  
翅<sup>ツバサ</sup>の<sup>ハ</sup>みえぬ  
天<sup>アマ</sup>の逆<sup>サカ</sup>手<sup>カデ</sup>も  
誰<sup>タレ</sup>り近<sup>コソ</sup>衛<sup>エ</sup>を  
朱<sup>シユ</sup>器<sup>キ</sup>臺<sup>ダイ</sup>盤<sup>バン</sup>の  
まの雌<sup>メ</sup>鳥<sup>ドリ</sup>羽<sup>バ</sup>よ  
あさりりねる  
右<sup>ミギ</sup>よ縊<sup>ヨリ</sup>羽<sup>ハ</sup>の

空<sup>ソラ</sup>目<sup>メ</sup>よも  
鳥<sup>トリ</sup>羽<sup>バ</sup>崇<sup>ス</sup>徳<sup>トク</sup>  
うよなくよ  
の乃<sup>ノ</sup>よぶべき  
とりをみも  
おほされて  
雄<sup>オス</sup>鳥<sup>ドリ</sup>羽<sup>バ</sup>の  
よぢれよる



( )

おどろしき世を  
音よきこえし  
弓雄がさけぶ  
火もかなさより  
白河殿よ  
けぶりよあへぐ  
恨みをのみて  
志度るもどろよ

かぶらやの  
保元  
遠方の  
たくぶすま  
ながるれば  
火食馬  
讃岐のや  
よぶ聲の

(九段)

となれさる  
た弓取よ  
兒の手がしもの  
鎧ひとつを  
なにうらしろを  
關の童子が  
鳥柴の梅う  
紅葉をりよく

世の中  
ひうれさる  
ふおもて  
かべさまよ  
えいりりの  
手よどるや  
松ならぬ  
御園生の

( )



CCCC

人<sup>ヒト</sup>いとがめぬ  
とらむとをたつ  
かこつ左<sup>ユ</sup>の手<sup>テ</sup>も  
秋<sup>アキ</sup>野<sup>ノ</sup>よおつる  
かろくもらるゝ  
聲<sup>コエ</sup>もくごもる  
平<sup>ヘイ</sup>氏<sup>シ</sup>たふると  
ひいきいさらぬ

この君<sup>キミ</sup>も  
想<sup>サウ</sup>夫<sup>フ</sup>戀<sup>レン</sup>し  
志<sup>シ</sup>のむれて  
松<sup>マツ</sup>風<sup>カゼ</sup>の  
伊<sup>イ</sup>波<sup>ハ</sup>胡<sup>コ</sup>春<sup>ス</sup>よ  
志<sup>シ</sup>ゝが谷<sup>ダニ</sup>  
よぶ聲<sup>コエ</sup>の  
かゝもなし』

(十段)

あな戴<sup>ウビ</sup>星<sup>タ</sup>馬<sup>ヒ</sup>の  
波<sup>ナミ</sup>をかづきて  
蛭<sup>ヒル</sup>小<sup>コ</sup>島<sup>シマ</sup>の  
いづらう友<sup>トモ</sup>を  
宿<sup>ネト</sup>鳥<sup>トリ</sup>おびゆる  
時<sup>コト</sup>牛<sup>ヒ</sup>くるへる  
世<sup>ヨ</sup>をせむめさる  
榮<sup>エイ</sup>花<sup>クラ</sup>の夢<sup>ユメ</sup>を

宇<sup>ウ</sup>治<sup>ヂ</sup>河<sup>ガハ</sup>の  
いむなり  
とちどり  
よむざらん  
富<sup>フ</sup>士<sup>シ</sup>野<sup>ノ</sup>川<sup>ガハ</sup>  
俱<sup>ク</sup>利<sup>リ</sup>伽<sup>カ</sup>羅<sup>ラ</sup>谷<sup>ダニ</sup>』  
六<sup>ロク</sup>波<sup>ハ</sup>羅<sup>ラ</sup>の  
おどろろす



CCCC

四〇

天<sup>テン</sup>台<sup>ダイ</sup>山<sup>セン</sup>の

とき<sup>トキ</sup>の<sup>ノ</sup>こゑ

夕<sup>ユフ</sup>日<sup>ヒ</sup>を<sup>ヲ</sup>お<sup>ク</sup>る

福<sup>フク</sup>原<sup>ハラ</sup>の<sup>ノ</sup>

舊<sup>キウ</sup>都<sup>ト</sup>さ<sup>サ</sup>び<sup>ビ</sup>し<sup>シ</sup>き

四<sup>シ</sup>季<sup>キ</sup>の<sup>ノ</sup>御<sup>ゴ</sup>所<sup>シヨ</sup>

花<sup>ハナ</sup>さ<sup>サ</sup>く<sup>ク</sup>春<sup>ハル</sup>よ

こ<sup>コ</sup>ぎ<sup>ギ</sup>う<sup>ウ</sup>へ<sup>ヘ</sup>る

月<sup>ツキ</sup>の<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>船<sup>フネ</sup>の

ら<sup>ラ</sup>う<sup>ウ</sup>べ<sup>ベ</sup>ね<sup>ネ</sup>ど

三<sup>ミ</sup>草<sup>クサ</sup>お<sup>オ</sup>る<sup>ル</sup>し<sup>シ</sup>の

ふ<sup>フ</sup>き<sup>キ</sup>よ<sup>ヨ</sup>て<sup>テ</sup>バ

炎<sup>ホノ</sup>た<sup>タ</sup>い<sup>イ</sup>よ<sup>ヨ</sup>ふ

一<sup>イチ</sup>の<sup>ノ</sup>谷<sup>タニ</sup>

生<sup>イク</sup>田<sup>ダ</sup>の<sup>ノ</sup>森<sup>モリ</sup>よ

ち<sup>チ</sup>る<sup>ル</sup>梅<sup>ウメ</sup>も

簾<sup>エビラ</sup>よ<sup>ヨ</sup>の<sup>ノ</sup>こ<sup>コ</sup>る

や<sup>ヤ</sup>し<sup>シ</sup>ま<sup>マ</sup>が<sup>ガ</sup>よ

波<sup>ナミ</sup>も<sup>モ</sup>ら<sup>ラ</sup>め<sup>メ</sup>く

矢<sup>ヤ</sup>さ<sup>サ</sup>け<sup>ケ</sup>び<sup>ビ</sup>よ

雲<sup>クモ</sup>が<sup>ガ</sup>く<sup>ク</sup>れ<sup>レ</sup>る

日<sup>ヒ</sup>の<sup>ノ</sup>丸<sup>マル</sup>の<sup>ノ</sup>

扇<sup>アウギ</sup>の<sup>ノ</sup>お<sup>オ</sup>つ<sup>ツ</sup>る

壇<sup>ダン</sup>の<sup>ノ</sup>う<sup>ウ</sup>ら<sup>ラ</sup>し

う<sup>ウ</sup>ら<sup>ラ</sup>み<sup>ミ</sup>暮<sup>ク</sup>れ<sup>レ</sup>る

磯<sup>イソ</sup>崎<sup>サキ</sup>の<sup>ノ</sup>

ゆ<sup>ユ</sup>ふ<sup>フ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>る<sup>ル</sup>さ<sup>サ</sup>の

龍<sup>リウ</sup>の<sup>ノ</sup>宮<sup>ミヤ</sup>

よ<sup>ヨ</sup>も<sup>モ</sup>ぎ<sup>ギ</sup>が<sup>ガ</sup>島<sup>シマ</sup>よ

あ<sup>ア</sup>と<sup>ト</sup>た<sup>タ</sup>れ<sup>レ</sup>て

世<sup>ヨ</sup>を<sup>ヲ</sup>そ<sup>ソ</sup>む<sup>ム</sup>き<sup>キ</sup>る

日<sup>ヒ</sup>の<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>子<sup>コ</sup>の<sup>ノ</sup>

四一



ひうりをぬすむ  
鎌倉山の  
たれり眞實ど  
ちぎりいたえて  
倭文の芋手纏  
むろしを今よ  
烏帽子なまめく  
まひのかしらの

星月夜  
かひやぐら  
いとしいの  
倭文手纏  
くりうへし  
なしうちの  
をとこまひ  
おもけれバ

(十一段)

あしのかろびて  
富士の裾野の  
あそれとみずや  
千歳をこむる  
としなくかゝる  
主なき宿を  
占よいでさる  
露のめぐみを

をどりさる  
とらうらの  
鶴が岡  
つまぐしよ  
おちがみい  
うらへてう  
亀菊よ  
かけむびし



吉備の山キビヤマ

くろがねの

西面サイメンの

東夷エビスぶに

承久シヨウキウの

虚石花貝ウツセガヒ

隠岐の海オキウミ

守りモリとびし

なげ木ナゲキもたてる

鍛冶カヌチがきよふ

かさきのひがし

武士ブシよいそむく

君キミのあまぬ

軍イクサむなしき

からき宮居ミヤノミを

新島守ニシマモリが

なでむ世ナデヨを

てらしつゝ

なめり川ナメガハ

さぶめなき

よしあしよ

たのみなる

小雀コガクサの

よせぬいと

あらき波風ナミカゼ

松の火影マツホカゲよ

ひろふり錢ゼニの

ながれゆく瀬セも

行脚アンギヤがくる

露ツユもかゝりて

水穂ミヅホよすづく

高句麗コウコリ蒙古ムンコウの



引板ヒダのかけなと  
 吾妻アヅマよさけぶ  
 とやりごゝろい  
 暴風ハヤチふきまふ  
 雲クモもらづまく  
 ひうるゝ波ナミの  
 世セまたつや  
 とりよとりさる

鳥トリがなく  
 とやり雄ヲの  
 志シづむれど  
 博多ハカタの海ウミ  
 うづしほよ  
 といめきて  
 益マ荒雄アラヲが  
 たぢうらよ

つるぎのたがみ  
 ひらぶ貝ガヒなき  
 海松ミルメなぎさよ  
 から艦ロから楫カヂ  
 綱手ツナデむなしく  
 思オモひあさびし  
 さゝら搔カき鳴ナす  
 法師ホウシがとける

ひしぐれど  
 浦ウラづさひ  
 もられくる  
 から小チ船フネ  
 かのつ世ヨを  
 小サ石イシ川ガハ  
 田デン樂ガクの  
 高タカ履ゲイ子シ



けいくとなく  
 ものぐるほしき  
 日影<sup>ヒカゲ</sup>もみえで  
 笠置<sup>カサギ</sup>よまづむ  
 まさむきのぼる  
 千窟<sup>チハヤ</sup>よとらつ  
 東魚<sup>トウギョ</sup>ついでむ  
 たれうちざりて

いぬくひの  
 ながめよ  
 月の着<sup>ツキ</sup>る  
 雨<sup>アメ</sup>雲<sup>クモ</sup>の  
 山<sup>ヤマ</sup>の岫<sup>クキ</sup>  
 西<sup>サイ</sup>鳥<sup>テウ</sup>の  
 あらまし  
 未<sup>ミ</sup>來<sup>ライ</sup>記<sup>キ</sup>よ

(十二段)

隠<sup>オ</sup>岐<sup>キ</sup>の島<sup>シマ</sup>山<sup>ヤマ</sup>  
 行<sup>ユク</sup>手<sup>テ</sup>よなびく  
 君<sup>キミ</sup>が御<sup>ミ</sup>楯<sup>タテ</sup>と  
 秋<sup>アキ</sup>をたむけて  
 ながれいざなふ  
 おほうちやまよ  
 面<sup>オモ</sup>影<sup>カゲ</sup>うらぶ  
 見<sup>ミ</sup>えみ見<sup>ミ</sup>えずみ

いでましの  
 草<sup>クサ</sup>も木<sup>キ</sup>も  
 たちつゝく  
 菊<sup>キク</sup>・水<sup>スミ</sup>の  
 鳳<sup>ホウ</sup>・輦<sup>レン</sup>の  
 のぼれども  
 こしうよの  
 おぼつうな



〇〇〇

般ハシ若ニヤの箱ハコの  
人ヒトうあらぬう  
つうねし藁ワラよ  
雲クモのかけとし  
あやぶまれつゝ  
十字ジュフツの詩ウタの  
足アシ一イチ文字モジよ  
夜ヨよのりてゆく

うでめく  
あまがつう  
ほぶされて  
ふみまよひ  
老スギ坂サカよ  
かきなぐら  
ふみなして  
船フネ上カミの

御ミ方カタを松マツの  
畫エがくろ旗ハタの  
風カゼよいたへで  
稻イナ村ムラが崎サキ  
炎ホノホをおくる  
葛カサ西サイが谷ヤツの  
耳ミミよのこりて  
なりとよむ世ヨよ

けぶりもて  
いろくさも  
なびきよる  
志シほひれば  
由ユ比ヒの濱ハマ  
叫ケツ喚クワンも  
かしましく  
さらがへり

〇〇〇



弓<sup>ユミヤ</sup>箭<sup>ヤ</sup>まゝとる  
みやこの春<sup>ハル</sup>の  
柳<sup>ヤナギ</sup>さくらを  
錦<sup>ニシキ</sup>おりなす  
風<sup>カゼ</sup>よまうせて  
人<sup>ヒト</sup>のこゝろの  
とまよたゞよふ  
登<sup>ノボ</sup>るとかひい

延<sup>エン</sup>元<sup>ゲン</sup>の  
甲<sup>カウ</sup>胃<sup>チユウ</sup>の  
こきませて  
まゝあしの  
をれうへる  
うき雲<sup>クモ</sup>の  
比<sup>ヒ</sup>叡<sup>エ</sup>の山<sup>ヤマ</sup>  
みえぬ世<sup>ヨ</sup>を

かねてかくとや  
うき瀬<sup>セ</sup>またちて  
かへらぬ道<sup>ミチ</sup>よ  
仇<sup>アタ</sup>波<sup>ナミ</sup>さむぐ  
緑<sup>キナドリ</sup>へぶつる  
千重<sup>チヘ</sup>かさなりて  
みえずなりゆく  
まゝふきすさぶ

みなと河<sup>ガハ</sup>  
ゆく水<sup>ミヅ</sup>の  
おりよてバ  
兵庫<sup>ヒヤウゴ</sup>の海<sup>ウミ</sup>  
雲<sup>クモ</sup>霧<sup>キリ</sup>の  
丸<sup>マル</sup>重<sup>ヘ</sup>の  
くらまぎれ  
木<sup>コ</sup>枯<sup>カラシ</sup>を



あらしをひうねて  
たてる三木  
今のこのらぬ  
う木よまじれる  
おほしうてさる  
吉野法師が  
まづつきならす  
とぶちの鮒の

都方よ  
一草も  
世の中  
すめる木を  
大和のや  
僉議よも  
金が崎  
あぎとひを

五四  
五二

側見よのあらぬ  
水乞鳥の  
聲うらさびて  
秋のさうえぬ  
臥龍の夢の  
水練栗毛の  
ゆきもやられぬ  
船よもそよぐ

杉山よ  
なきうをす  
かれがさの  
藤島よ  
さめながら  
つけずまひ  
陸奥の  
仇の風

五五



(11)

安濃津アノツのいづこ  
つひよさめねど  
松マツの常磐トキハよ  
名ナもかぐとしき  
孫枝ヒコエにはほふ  
花ハナのすぎよし  
庭ニハの教ヲシヘの  
ちゝとのなるぬ

船フナ酔エヒの  
おきな 艸クサ  
いろかへぬ  
くすのきの  
吉ヨシ野ノ山ヤマ  
櫻サクラ井イの  
見すれねど  
みのむしの

五六

簞シロ代シロ衣ゴロモ

せくといすれど  
志シがらみうねて  
そよや、如意輪ニヨイリが  
こゝろよかけて  
かねておもへば  
寄方ヨルベの水ミツよ  
影カゲのみのこる

そでせをみ  
あさなみを  
とる証シヤ矢ヤの  
たまぶすき  
かへらじと  
あづさ弓ユミ  
うつろひし  
過去帳クワコチャウの

五七



(十三段)

むなしき<sup>カズ</sup>敷を  
四<sup>シ</sup>條<sup>テウ</sup>繩<sup>ナハ</sup>手<sup>テ</sup>の  
頓<sup>トミ</sup>よきえさる  
晩<sup>ホ</sup>照<sup>デリ</sup>さびしき  
まづあふがる  
雲<sup>クモ</sup>居<sup>ヰ</sup>の庭<sup>ニハ</sup>の  
えびすごろもよ  
きらめきさる

かぞへさる  
もふづくひ  
行<sup>カリ</sup>宮<sup>ミヤ</sup>の  
めうつしよ  
北<sup>キタ</sup>の御<sup>ゴ</sup>所<sup>シヨ</sup>  
せまけれど  
佩<sup>ハ</sup>く太<sup>タ</sup>刀<sup>タチ</sup>の  
花<sup>ハナ</sup>の御<sup>ゴ</sup>所<sup>シヨ</sup>

木の芽<sup>メ</sup>にる湯<sup>ユ</sup>の  
冬<sup>フユ</sup>さへよたつ  
春<sup>ハル</sup>のどろなる  
すごくいなむし  
麻<sup>マ</sup>呂<sup>ロ</sup>の田<sup>デン</sup>樂<sup>ガク</sup>  
殿<sup>テン</sup>上<sup>シヤウ</sup>人<sup>ヒト</sup>の  
阪<sup>バン</sup>東<sup>ドウ</sup>聲<sup>ゴエ</sup>を  
かゝむる腰<sup>コシ</sup>の

かげろふの  
室<sup>ムロ</sup>町<sup>マチ</sup>の  
富<sup>トミ</sup>草<sup>クサ</sup>よ  
いなごまる  
白<sup>シラ</sup>拍<sup>ピヤウ</sup>子<sup>シ</sup>  
猿<sup>サル</sup>樂<sup>ガク</sup>う  
よびなれて  
折<sup>オリ</sup>烏<sup>エ</sup>帽<sup>ボ</sup>子<sup>シ</sup>



まぶらよ着ても  
ひよひの志むむ  
よるべなぎさの  
つなぎもとめぬ  
むすぶかよなき  
かじけのみもく  
世をうつせみの  
もよべのまよぬ

あらとなる  
としなみの  
捨ステ小チ舟フネ  
玉タマの緒ヲの  
かよいと  
ちゝるむし  
音ネよなきて  
ひとむしの

志をしやすらふ  
ひとつひうりの  
世ヨのふよつなく  
なりくなりや  
月ツキのみちうけ  
風カゼのあしさへ  
都ミヤコの空ソラよ  
かるびあがれる

天アメの下シタ  
てらせども  
三ミ乗ノリの  
四ヨ、絃ヲの  
さぶめなく  
みづれての  
たつ塵チリも  
雲クモの上ウヘ



星ホシのくらの  
さすもかひなき  
笠カサのむけの  
ときよのみとく  
荆棘オドロがもとよ  
生イくとしもなき  
ふみしづきゆく  
とさむりひろき

影カゲさびて  
三ミ笠カサ山ヤマ  
黒クロ髪カミの  
徳トク政セイの  
あをびれて  
民タミ草クサを  
こまにしき  
大オホ路ヂよも

身ミを狭セバ布ヌの  
節フシのみみゆる  
とけぬみづれよ  
年トシの緒オチながく  
東トウ西サイ軍クンも  
空ソラにたゞよふ  
月ツキ代シロ掠カッふ  
堯カブトよおちて

さゆみなる  
絳シゲ絲イトの  
むすばれて  
うちとへし  
やみぐさの  
雲クモの原ハラ  
よむひぼし  
飛トテ火ヒ野ノの



〇〇〇

末<sup>スグロ</sup>黒のすゝき  
葎<sup>ヨシアシ</sup>葦志げる  
箱<sup>ハコネ</sup>根おろしよ  
雲<sup>クモ</sup>とむしりて  
影<sup>カゲ</sup>さへ志づく  
河<sup>カハ</sup>中<sup>ナカ</sup>島<sup>シマ</sup>の  
さらめきおつる  
畏<sup>クラ</sup>頭<sup>トウ</sup>の袖<sup>ソデ</sup>よ

つ<sup>ツ</sup>のぐめバ  
足<sup>アシ</sup>柄<sup>ガラ</sup>や  
志<sup>シ</sup>ぶ<sup>ブ</sup>るゝ  
河<sup>カハ</sup>越<sup>ゴエ</sup>の  
信<sup>シチ</sup>濃<sup>ノ</sup>なる  
あ<sup>ア</sup>さ<sup>サ</sup>ば<sup>バ</sup>ら<sup>ラ</sup>け  
秋<sup>アキ</sup>の霜<sup>シモ</sup>  
た<sup>タ</sup>ま<sup>マ</sup>れ<sup>レ</sup>ど<sup>ド</sup>も

うち<sup>ウチ</sup>のそ<sup>ソ</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>ぬ  
身<sup>ミ</sup>を<sup>ヲ</sup>鴛<sup>ウ</sup>鴦<sup>ヤ</sup>の  
翅<sup>ツバサ</sup>も<sup>ヲ</sup>そ<sup>ソ</sup>ば<sup>バ</sup>つ  
船<sup>フネ</sup>且<sup>ナ</sup>こ<sup>コ</sup>せ<sup>セ</sup>を<sup>ヲ</sup>と  
楫<sup>カサ</sup>の音<sup>ネ</sup>も<sup>ヲ</sup>せ<sup>セ</sup>ぬ  
い<sup>イ</sup>つ<sup>ツ</sup>き<sup>キ</sup>す<sup>ス</sup>る<sup>ル</sup>ゝ  
つ<sup>ツ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>よ<sup>ヨ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>き<sup>キ</sup>て  
罪<sup>ツミ</sup>い<sup>イ</sup>き<sup>キ</sup>え<sup>エ</sup>せ<sup>セ</sup>ぬ

つ<sup>ツ</sup>る<sup>ル</sup>ぎ<sup>キ</sup>を<sup>ヲ</sup>の  
そ<sup>ソ</sup>を<sup>ヲ</sup>ぶ<sup>ブ</sup>つ<sup>ツ</sup>る  
雨<sup>アメ</sup>も<sup>ヲ</sup>よ<sup>ヨ</sup>よ  
よ<sup>ヨ</sup>を<sup>ヲ</sup>へ<sup>ヘ</sup>ど<sup>ド</sup>も  
い<sup>イ</sup>つ<sup>ツ</sup>く<sup>ク</sup>島<sup>シマ</sup>  
陶<sup>スエ</sup>物<sup>モノ</sup>の  
弒<sup>シイ</sup>逆<sup>ギャク</sup>の  
未<sup>ミ</sup>来<sup>ライ</sup>劫<sup>ゴウ</sup>』  
六五



(十四段)

非<sup>ロ</sup>天<sup>テ</sup>がさけぶ  
蓮<sup>レン</sup>華<sup>ゲ</sup>の紅<sup>ク</sup>蓮<sup>レン</sup>  
弘<sup>グ</sup>誓<sup>セイ</sup>の海<sup>ウミ</sup>も  
涅<sup>ク</sup>みそめさる  
我<sup>ワ</sup>がたつ杓<sup>ソウ</sup>も  
他<sup>タ</sup>力<sup>リキ</sup>をたのみ  
阿<sup>ア</sup>彌<sup>ミ</sup>陀<sup>ダ</sup>が峰<sup>ミネ</sup>も  
奈<sup>ナ</sup>落<sup>ク</sup>よおつる

妙<sup>メウ</sup>法<sup>ホフ</sup>の  
大<sup>ダイ</sup>紅<sup>ク</sup>蓮<sup>レン</sup>  
濁<sup>ニゴリ</sup>江<sup>エ</sup>の  
墨<sup>スミ</sup>染<sup>ゾメ</sup>の  
おほえねの  
名<sup>ミヤウ</sup>號<sup>ガウ</sup>の  
くづれての  
修<sup>シュ</sup>羅<sup>ラ</sup>道<sup>ダウ</sup>の

如<sup>ニョ</sup>法<sup>ホフ</sup>闇<sup>アン</sup>夜<sup>ヤ</sup>の  
をてもこのもよ  
ふきとらひさる  
そよしく機<sup>ハタ</sup>を  
持<sup>カセ</sup>のみごれを  
あやめづらしき  
御<sup>ミ</sup>衣<sup>ケシ</sup>おりなす  
ふむう機<sup>マキ</sup>躡<sup>キ</sup>ひ

桶<sup>ヲケ</sup>狭<sup>ハサ</sup>間<sup>マ</sup>  
雲<sup>クモ</sup>霧<sup>キリ</sup>を  
尾<sup>ヲ</sup>張<sup>ハリ</sup>風<sup>カゼ</sup>  
織<sup>オリ</sup>田<sup>ダ</sup>なれや  
織<sup>オリ</sup>龍<sup>リョウ</sup>の  
くりうへし  
衰<sup>シ</sup>龍<sup>リョウ</sup>の  
織<sup>オリ</sup>復<sup>フシ</sup>よ  
まねうねど



噴<sup>シ</sup>志<sup>イ</sup>のほむら  
煙<sup>ケ</sup>を<sup>ア</sup>とらむ  
ほのさる空<sup>ソ</sup>を  
雁<sup>カ</sup>の使<sup>ツ</sup>の  
細<sup>ホ</sup>谷<sup>タ</sup>川<sup>ガ</sup>の  
むすべバ泡<sup>ア</sup>緒<sup>ウ</sup>  
をちりへりくる  
すいめあさりて

もえふてバ  
本<sup>ホ</sup>能<sup>ノ</sup>寺<sup>ジ</sup>  
うちとふる  
吉<sup>キ</sup>備<sup>ビ</sup>の山<sup>ヤマ</sup>  
帯<sup>オビ</sup>を<sup>オ</sup>けて  
たぎつ瀬<sup>セ</sup>の  
すゝみごり  
やまごさの

巢<sup>ス</sup>山<sup>ヤマ</sup>のねぐら  
ぬすふつ日<sup>ヒ</sup>雀<sup>ガ</sup>  
關<sup>セ</sup>緒<sup>キ</sup>すゑつゝ  
春<sup>ハ</sup>のかづらく  
いむゆる駒<sup>コ</sup>の  
たちてつまづく  
賤<sup>シ</sup>が手<sup>テ</sup>よとる  
絲<sup>イト</sup>のまつれも

くらぐら  
栗<sup>ク</sup>栖<sup>ス</sup>野<sup>ノ</sup>よ  
佐<sup>サ</sup>保<sup>ホ</sup>姫<sup>ヒメ</sup>の  
柳<sup>ヤ</sup>が瀬<sup>セ</sup>よ  
たつがみも  
賤<sup>シ</sup>が  
学<sup>マ</sup>手<sup>テ</sup>纏<sup>マキ</sup>の  
をさまりて





めぐればいづる  
 春のどろなる  
 畑もる男が  
 くつめづらしき  
 みゆきの庭よ  
 大和錦の  
 あうきこゝろを  
 神よちりひて

峰の回の  
 えさつもり  
 つるよつく  
 いでましを  
 遊きしまの  
 となもみぢ  
 あらひとの  
 手向草

さげいでたる  
 よそほひおもき  
 軽くまつさる  
 三葉あふひの  
 なにもろこしを  
 露もすれぬ  
 罪のむくい  
 のりぐちよひく

うめをちの  
 おもぶらよ  
 つらうづら  
 もるさぐさ  
 あぶし野の  
 弘安の  
 くつめづら  
 こまらどが





うつや飛礫の  
いししく、仇よ  
弓張月  
四百餘州も  
あうりもてゆく  
なにさの三津の  
葦分小舟  
なづみがちなる

さゝれいし  
かへし矢の  
影おちて  
くらむ世よ  
ハ洲よ  
蚕の子も  
さとりおほみ  
東海道

(十五段)

吾妻男が  
ねらふ火串よ  
敷そとりのく  
雨も日頃を  
ながれよりくる  
うなみさなみを  
せけバあぶれて  
みかさよかへる

射翳たて  
よる鹿の  
夏山  
ふるる河の  
落合よ  
關が原  
みなるとの  
江戸川や



みなぎる水ミツの  
つくく鐘カネを  
佛ホトケの胸ムネよ  
月グワツ輪リン觀クワンよ  
影カゲのみえじと  
人ヒトのこゝろを  
あさればよどむ  
夜ヨ殿ドの夢ユメよ

たゝひ來キて  
大ダイ佛ブツの  
むすぶ手テの  
にびりさる  
駿ウマ河カなる  
くみりねて  
淀ヨド川ガハの  
おそされて

によびつゝつく  
ゑくばなまめく  
桔キ梗キヤウ刈カル萱カヤ  
うらみ大城オホキの  
ほりよほりさる  
よぼろがもつる  
大坂オホサカ山ヤマの  
つひよくづれて

つらづゑの  
女メ郎ナラ花ハナ  
葛クズの葉ハの  
いゝるくさの  
鉄テツよぼろ  
土ツチ塊クレの  
峰ミネも尾ヲも  
たひらぎの



かひのひろへど  
むしよれぎぬの  
かくれてむすぶ  
いとひこめさる  
いとで掻き鳴す  
聲すめろぎの  
雲居のよそよ  
小簾ひきまもの

これうらの  
かくれ笠  
ひもろぎよ  
ひめごとの  
すがいさの  
神なれや  
へぶてさる  
まもごもり

中心の緑の  
妙よあやつる  
くいつまとしよ  
鬼も佛も  
野伏山伏  
ひいく神樂の  
秋野の敷よ  
からうみうさふ

一人して  
傀儡の  
えやされて  
はふくこの  
すかけよ  
をうとさき  
いらぬ身も  
枯萩の



さやぎさちる  
もらくる露ツユの  
さけばまさちる  
みづれうういふ  
とやくみいでし  
月ツキう鬼火オニヒう  
海路ウミヂけとしき  
もけばたゞよふ

天アマ草クサの  
たまえさき  
世ヨの塵チリの  
天テン文モンよ  
みらばし  
不シラ知メ火ヒの  
神カミの道ミチ  
種タネ子ネが島シマ

さすやかるうの  
ふみておどろく  
とむしりつきし  
あとののこれる  
誰タレほるもりよ  
法ホウいつよへし  
行手ユクテをぐらき  
鰐ワニも野槌ノヅチも

軽カル足アシよ  
うまざくり  
ひちりこの  
蒲ホル萄ト牙ガル  
外トツ國クニの  
暮露ボロがもく  
海ウミ山ヤマの  
すむつうり



にがりてみれば  
堅タカさのゆるず  
道ミチよ莫ナコ來ソの  
すゑよすゑさる  
寺テラ主ツの竹タケの  
かしこき節フシも  
よゝをこめさる  
つくろすがるう

八〇  
筆アシ 蟹ガニ の  
横ヨコ さらふ  
關セキ 守モリ を  
寬クワン 永エイ の  
園エン 生フ よ  
あるものを  
杖ツエ 代シロ の  
武ムサ 藏シ 鐘アブミ  
鐘シ

こゝろよかけて  
こまほしげなる  
となりかくなり  
端ハシ居キしてさく  
由ユ比ヒの濱ハマ風カゼ  
荒ア磯リソよみえて  
とればなみよる  
たゞ影カゲをのみ

やましるの  
瓜ウリ つくり  
鳴ナル 雷カミ も  
君キミ 代ヨ よ  
ふくかひも  
手テ もたもく  
帚ハシ 木キ の  
鳥トリ 部ベ 山ヤマ



けぶりをさめて  
春をさへづる  
これ木の花の  
待乳の山  
隅田河原の  
ちしほそめなす  
色もますほの  
薄がまねく

鎌倉の  
うぐひすの  
さうえのみ  
夕こえて  
雪の夜よ  
吳藍の  
赤穂なる  
魂よむひ

よべこふる  
よそよいきうぬ  
魂魄たづぬる  
穂あわらされて  
雉子なく野の  
學問の道も  
雪よ螢よ  
世の太平の

天彦も  
旻樂よ  
眞心  
深雪鳥  
ひろければ  
かつみえて  
かはやける  
海津路よ





(十六段)

おもひやかけし  
 騷<sup>サワギ</sup>を三津<sup>ミツ</sup>よ  
 八島<sup>ヤシマ</sup>士奴美<sup>シヌミ</sup>の  
 志<sup>シ</sup>るしありやと  
 志<sup>シ</sup>めバ落<sup>オツ</sup>といふ  
 國<sup>クニ</sup>來<sup>コ</sup>國<sup>クニ</sup>來<sup>コ</sup>と  
 ひけバけぶりも  
 海<sup>ウミ</sup>のおもても

おほしほの  
 すみなれて』  
 神<sup>カン</sup>語<sup>ゴト</sup>を  
 刺<sup>ミカ</sup>栗<sup>クリ</sup>の  
 山<sup>ヤマ</sup>、姫<sup>ヒメ</sup>も  
 引<sup>ヒキ</sup>眉<sup>マユ</sup>の  
 くるふねよ  
 志<sup>シ</sup>とみ來<sup>キ</sup>て

くねりあがれる  
 天<sup>ソラ</sup>にそびゆる  
 くづれおちくる  
 むりしの夢<sup>ユメ</sup>の  
 夢<sup>ユメ</sup>野<sup>ノ</sup>またてバ  
 むと來<sup>コ</sup>し道<sup>ミチ</sup>も  
 世<sup>ヨ</sup>を海<sup>ウミ</sup>邊<sup>ベタ</sup>よ  
 なごろのささぎ

波<sup>ナミ</sup>の穂<sup>ホ</sup>の  
 ほどこそあれ  
 おとなひよ  
 さめながら  
 志<sup>シ</sup>りすがよ  
 たどられて  
 さまよへバ  
 大<sup>オホ</sup>島<sup>シマ</sup>も



小島もとよむ  
八十氏人の  
おもひをうれて  
香をとめてくる  
いつよのあらぬ  
ちりほふ庭の  
あな卯の花の  
たへぬ雲居の

八十島の  
やちまよ  
たちむなの  
櫻田の  
むの  
雪見草  
ふきよの  
星まよひ

昂星のむつぶ  
さやうよおつる  
薩摩の瀬門の  
あふれおちあふ  
乗りなやみさる  
あづまうらげの  
内外ふさがる  
ゆくかよもなき

魚子の  
長門の海  
高潮も  
まほさるを  
吾妻船  
ふさまよ  
無戸室の  
戸無美山



獵夫サツチよあふり  
木末コズエをなれて  
とべつまつづく  
うつぶさいでて  
うくれバとしる  
御坂ミサカの相模サガミ  
野守ノモリのかゝみ  
行方ユクヘさごめぬ

むさしびの  
鳥羽トリバ伏見フシミ  
おほさうの  
泛ワケ船フネの  
あしがらを  
武藏野ムサシノの  
かげきえて  
逃ニゲ水ミヅの

(十七段)

上野ウエノまたまる  
終ツヒまかくれて  
みえずなりさる  
こよ、真マ進サキ國クニ  
豊トヨ葦アシ原ハラの  
ふさしびあふぐ  
ひうりもたうき  
たてるの瓊ヌボコ矛コ

よどみさへ  
箱ハコ館ダテも  
内ウチ木キ綿ワタの  
さきとひを  
ひどくさの  
高タカ千チ總ホの  
日ヒの本ホトよ  
くとし矛ボコ」



〇

千<sup>チ</sup>足<sup>タル</sup>の國<sup>クニ</sup>の  
何<sup>ナニ</sup>もたぐへん  
猛<sup>マ</sup>雄<sup>ケ</sup>がとるや  
けふるにはひの  
むろしがさりも  
さけばこゝろも  
初<sup>ハツ</sup>背<sup>セ</sup>の駒<sup>コマ</sup>も  
草<sup>クサ</sup>よのあらぬ

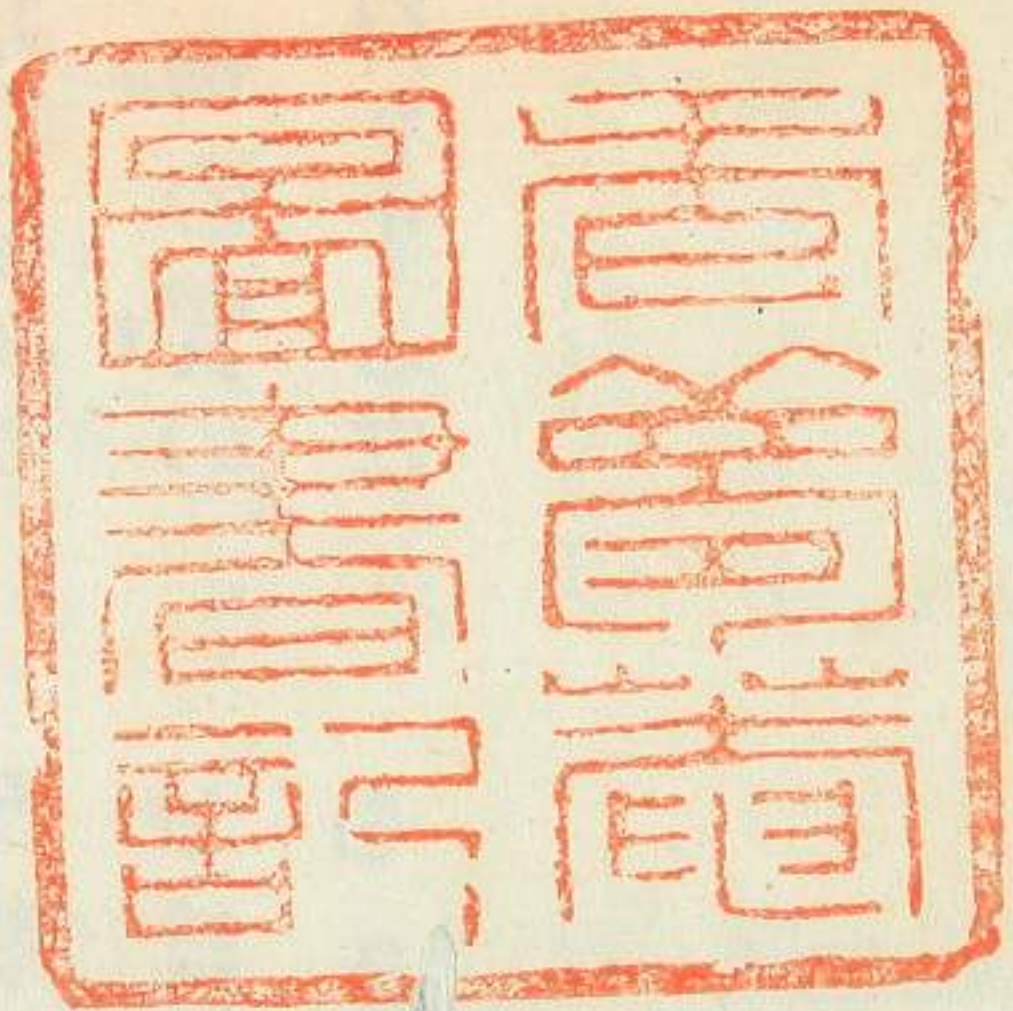
九〇  
雄<sup>ヲ</sup>々<sup>ハ</sup>しさの  
益<sup>マ</sup>荒<sup>ス</sup>雄<sup>ヲ</sup>の  
燒<sup>ヤ</sup>太<sup>ダ</sup>刀<sup>チ</sup>よ  
ほのうなる  
き・なれて  
こもりくの  
荷<sup>ニ</sup>なふてふ  
きみの總<sup>ホ</sup>の

君<sup>キミ</sup>よつうふる  
ふさよとらみて  
秋<sup>アキ</sup>の田<sup>タ</sup>の實<sup>ミ</sup>の  
おもひをするな

眞<sup>マコト</sup>こゝろの  
うなりぶす  
おほるうよ  
め<sup>メ</sup> 髪<sup>カミ</sup>



世繼の歌とまじり



明治二十八年一月二十日印刷  
同日發行

發行人兼  
編輯人

東京市麹町區飯田町五丁目八番地

國學院

代表者

青戸波江

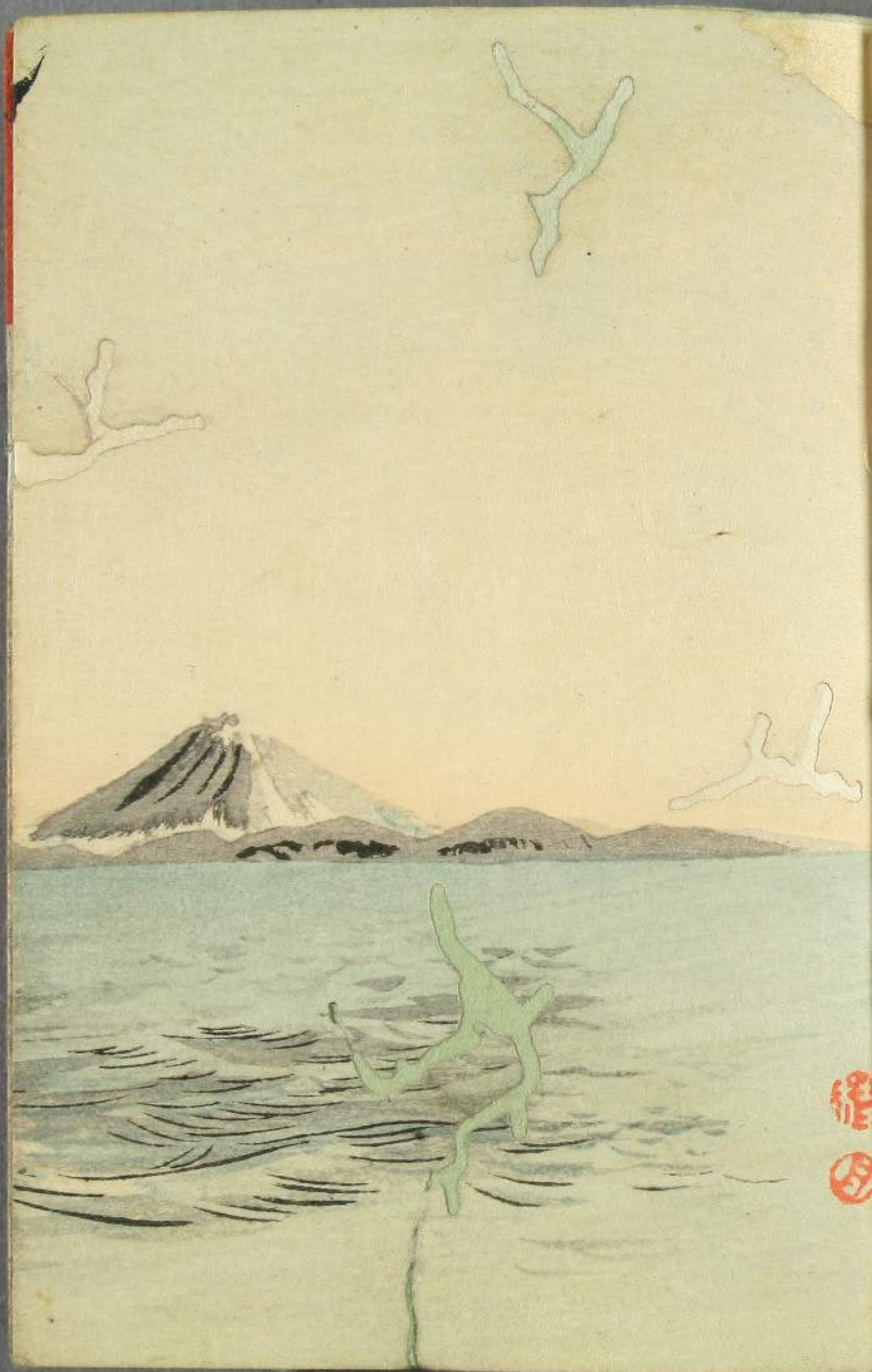
廿六番地

近藤圭造

印刷者 全  
印刷所 全

皇典講究所印刷部





Two red square seals are located at the bottom center of the left page. The top seal contains the characters '松林' (Matsubayashi) and the bottom seal contains the characters '之印' (no-in), indicating the artist's name and seal.



